令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2024008

プロジェクト名　ビルキャンでもミツバチのプレゼントはもらえるのか！？

プロジェクトの概要

ミツバチはハチミツの生産や農作物の受粉を通じて私たちの食生活に欠かせない存在である。しかし、地球温暖化や農薬汚染により生息数が減少している。この課題に対処するため、都市環境域では、都市養蜂が注目されている。本プロジェクトの最終目標は、千代田区のビルキャンパスでミツバチを飼育しハチミツを生産することである。養蜂は長年の経験に基づくノウハウが必要であるため、今年度は専門家と関係を構築することに重点を置いて実施した。

プロジェクトの結果・成果

本プロジェクトは、養蜂に関する知識や技術、人脈、サポート体制が全く無い状態からスタートした。次年度から養蜂を開始するためには、今年度の活動を以下のように企画し準備を進めた。

ⅰ）養蜂に関する文献調査 / ⅱ）養蜂を行うための諸制度の調査 / ⅲ）都市養蜂を実施している企業・大学へのヒアリング / ⅳ）衛星リモートセンシングを用いたミツバチの生育環境の解析 / ⅴ）学部施設の許可申請

特に**大きな成果を得たのは、ⅲ）とⅳ）の活動**である。24 年７月～25 年１月にかけて、近隣の大学や養蜂場に対してヒアリングおよび内検の見学を延べ 17 日行った。顧問の地元である埼玉県坂戸市では全国で初めて行政として養蜂を実施している。ここで、ミツバチ研究で著名な干場先生（元玉川大学教授）と関係を構築することができた。さらに、目黒養蜂場の渡辺先生（獣医師で養蜂家）との関係も構築することができたことから、国内最高のサポート体制で次年度にむけての取り組みができることが可能となった。また、銀座ミツバチプロジェクト、明海大学、千葉商科大学、安田学園なども訪れ、ヒアリングを行い、専門家と関係を構築することができた。

次年度採蜜予定のハチミツがどの場所で採取されたものかを事前調査するために水道橋周辺の蜜源植物マップの作成した。衛星画像と現地調査から経済学部キャンパスから２㎞圏内（ミツバチの飛行範囲）を調査した。その結果、小石川後楽園や上野公園、皇居が含まれていることが分かり、実際に皇居でミツバチを確認することができた。また、リモートセンシング技術を活用した調査結果から水道橋周辺でも養蜂が可能であることが確認できた。

これらの活動を通じて、次年度に養蜂を始めるにあたって、これ以上ない準備が整った。

活動写真





